

## 都城市立祝吉中学校の学力向上への取組

### 1 平成17年度の本校の学力調査結果及び意識調査結果から見た課題

#### (1) 学力調査結果からの課題

5教科中、3教科が県平均、管内平均を上回っているが、下記の点で課題が残される。

- ・ 国語科では、文脈に即した内容の記述や漢字の読み書きなどが不十分である。読む力や言語についての知識・理解・技能の定着と関連させながら強化していく必要がある。
- ・ 数学科では、数量・図形に関する知識・理解の定着率が他項目に比べて低い。
- ・ 理科では、知識・理解面を強化させることが課題であり、徹底して覚えさせる必要がある。
- ・ 社会科では、基礎の達成率が県平均より低く、知識・理解の力を付ける必要がある。
- ・ 英語科では、県の平均点を下回っており、特にリスニングの問題や会話表現・状況判断に関する問題の正答率が低い。

#### (2) 意識調査結果からの課題

- ・ 読書について、他の取組と比較すると消極的であることが分かり、読む力を育てる点が課題である。
- ・ 自宅での学習の時間が短く、学習の方法がよく分かっていない生徒が多い。
- ・ 全体的に自分から調べるとか、自分から実行するという意識が低いことから、課題解決を行う意欲や態度が弱い。
- ・ テストのやり直しやその日の学習内容の復習が不十分である。また、ふだんから計画を立てて、こつこつと学習する習慣が身に付いていない面がある。

### 2 学力向上に向けた課題解決への具体的な取組

#### (1) 学力向上に向けた経営方針

本校は、平成15・16年度都城市教育委員会指定研究学校並びに北諸県教育事務所研究協力校として「個に応じた指導方法の工夫改善」等の学習指導の研究に取り組んできた。しかし、生徒は意欲的に取り組むものの、基礎学力の定着にかなりの個人差がみられた。又、年度当初に「教師の授業力」についてアンケートを行ったところ、自分自身の授業に満足していない教師が4分の3をしめる実態も明らかになった。教師が「分かる授業」を創造していく力を「授業力」ととらえ、仮説を次のように設定し研究を進めた。

学習指導において、一人一人の教師が「授業力」を向上させ、「分かる授業」を実践すれば、生徒が自主的・積極的に学習活動に取り組むようになり、確かな学力を身に付けることができるであろう。

「授業力」の向上を図るための工夫改善を図り、一人一人の教師が実践目標を設定し、以下の項目をふまえて研究・実践を行った。

- ・ 自らの授業を振り返り改善するための指導状況の把握
- ・ 「分かる授業」を企画・創造するための教材分析や指導計画の立案
- ・ 「分かる授業」を実践するための指導技術の工夫改善
- ・ 生徒を学ぶ集団へと高めるための学習環境の整備

## (2) 教育課程内の取組

「前年度踏襲に陥らない」ことを念頭におき、今まで実施してきたことを再検討し以下のように改善した。

- ・ 授業時数の確保（昨年度より多い時数の確保）
- ・ 教育課程の見直し（行事等の見直し）
- ・ 総合的な学習の時間のまとめ取り（まとめて一定の期間あるいは、一日、半日で実施）
- ・ 時間割の工夫（季節に合わせ4期に分けて作成）

## (3) 教育課程外の取組

### ① 朝自習の充実

朝自習を小テスト形式で実施した。教科で学習した内容から、基礎的・基本的な事項を選んで出題した。繰り返し取り組ませたことで、苦手としていた生徒も徐々にできるようになり「分かった」という成就感を味わわせることができた。

### ② 家庭学習の充実

教科で家庭学習を行うためのノート「数宅」「英宅」「社宅」（教科の宅習という意味の造語）の提出を求めている。数学科では既習事項の復習を中心とし、理解の早い生徒は予習にも使用している。支援を要する生徒は、授業中に十分理解できなかった内容の練習問題を繰り返し復習したり、授業の内容をまとめたりして活用している。

### ③ 夏季休業中の学習

夏季休業中に、補充的な学習をするコースと発展的な学習をするコースを開設した。補充的な学習コースは、生徒の実態に応じた課題を作成し生徒が選択できるようにした。発展的な学習コースは、基礎・基本が身に付いた生徒で、より多くの問題を解きたい、より難しい問題に挑戦したいという生徒の要望に応える内容で開設した。多くの生徒が自主的に参加し、意欲的に取り組んでいた。

## (4) 保護者・家庭、地域との連携

### ① 進路だよりの発行

進路指導部から定期的に「進路だより」を発行し、主体的な進路選択ができるよう努めている。内容は「苦手教科の克服法」、「進路情報」、「職場体験報告」等で、進路の選択方法や職業及び上級学校等に関する新しい情報を掲載し、生徒及び保護者への啓発を行っている。

### ② 校種間連携

祝吉中学校区では、「祝吉中学校区幼小中高合同研修会」を毎年実施するとともに、身に付けたい基本的な習慣（聞く態度・時間を守る・学習時の姿勢）の重点的指導と家庭学習の奨励を地域で行っている。特に、小中学校間では、教科ごとに共通の実践目標を設定して学力向上に取り組んでいる。

### 祝吉中学校区幼小中高合同研修会



## 3 成果と課題（今後の取組を含む）

- 「分かる授業」を目指して研究授業も一人複数回実施できた。
- 授業が変わったことで、これまでより生徒自身が学習の到達度を意識するようになった。
- 「前年度踏襲に陥らない」よう改善したことが、教師自身の意識の変容につながった。
- 生徒は落ち着いた学習態度で意欲的に取り組むものの、まだ基礎学力の定着にかなりの個人差がみられる。今後は、課題解決のために、教師一人一人が年3回の研究授業に取り組み、指導技術の向上を目指した授業改善を図ることで、もっとよく「分かる授業」を組織として実践していきたい。